

図書室は大きな味方

石田 邦子

30周年おめでとうございます。いつも図書室を便利に活用させていただいております。

私が本を好きになったのは、亡くなった父が「トムソーヤの冒険」を買ってきてくれたことがきっかけです。本の中に広がる世界に引き込まれ、自分があたかも体験したような感覚に浸り読みふけてしまいました。その日から今まで、ずっと身近に本のある生活が続いております。

本のある生活が送れるのは、近くに図書室があるおかげです。本を買いお金も大変ですし、本を保管する大きな書棚もありません。そんな私の大きな味方が図書室というわけです。お使いのついでに寄って、その日の気分で小説、雑誌、お料理のレシピ本、ちょっと難しい専門書、医学書といういろいろなジャンルに挑戦しております。

私には、年間200冊読破を目標に老後を晴耕雨読の生活を送っておられる恩師がおります。私もその先生に刺激を受け、先生の記録には及ばなくとも、1週間に1〜2冊、年間60冊以上を目標に読書に励んでいる今日この頃です。今年はいいペースで進み、現在55冊を読み終えたところです。これからもすすきな本をたくさん提供してくださることを期待しております。

私にとっての図書館

立科小学校 六年二組 土屋 りか

学校の帰りに図書館に入ると「おかえり〜」という声が聞こえます。

私の家は芦田のバス停から「おやまちゃん」に乗り女神湖の近くで降りた所にあります。私たち「山の子」は、「おやまちゃん」が出るまでの間、図書館を利用していきます。宿題をしたり、お友達と遊んだり、私にとっての図書館は、本を借りるところというより、家に帰るまでの時間を過ごす大事な場所です。お父さんやお母さんのお迎えの待ち合わせ場所で使うこともあります。

お迎えがなかなか来なくて心配だった時、先生がやさしく声をかけてくれます。

学校にはお金を持って行かないので、公しゅう電話が使えずに困っている時には、先生が自分のケイタイを貸してくれたりします。

宿題をしたり、本を読んだり、遊んだりしていると、バスの時間を忘れてしまっかけて乗らなくなることがあります。「バスの時間だよ〜」と呼びに来てくれたりしました。

私は小学校を卒業するので図書館を使うことが少なくなると思いますが、これからも「山の子」や他の子どもたちが安心して過ごせる場所、困ったときにたよれる場所だといいたいと思います。

先生方いつもありがとうございます。これからもよろしくおねがいします。

中川ひろたかさんプロフィール

- 1995年、「さつまのおいも」(童心社)で絵本作家デビュー。
- 「わにのスイニー」(講談社)で児童福祉文化賞推薦作品「ないた」(金の星社)で日本絵本大賞を受賞。作品に「さつまのおいも」などの「ピーマン村の絵本」シリーズ(童心社)や、「ショコラちゃん」シリーズ(講談社)など、現在まで著書200冊を超える。
- 代表曲に「おーいかばくん」「みんなともだち」「世界中のこどもたちが」「にじ」「ともだちになるために」など、作詞作曲約2300曲。CDは100アイテムを発表。
- D1だじゃれグランプリ、A1あそびうたグランプリを主宰。
- 2013年よりNHKBSプレミアム『おとうさんといっしょ』にあそびアイデアを提供。



立科町公民館図書室30周年記念事業 第2弾!

おかげさまで30周年 立科町公民館図書室 30th ANNIVERSARY

中川ひろたか 絵本とうたのファミリーコンサート

日時 10月30日(日) 13時30分~(開場13時)

会場 たてしな保育園

入場無料 (先着250名)

サイン会&書籍の販売あり

